

鉄は魔法つかい 命と地球をはぐくむ「鉄」物語

畠山重篤著 / スギヤマカナヨ・絵

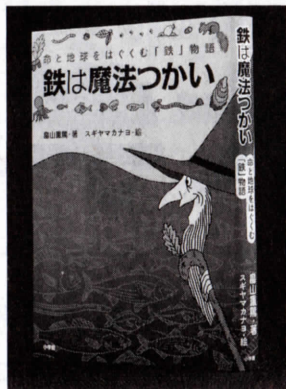
小学館 1300円

評・三浦 佑之 (古代文学研究者
立正大教授)

今から22年も前のこと、宮城県気仙沼湾でカキの養殖をしている漁師さんが、上流の山に木を植える運動をはじめました。海の生き物がゆたかに育つためには、海に流れこむ川の上流にゆたかな森林が必要だということを、海ではたらく人は経験として知っていたからです。

この本には、「森は海の恋人」と名付けて山に木を植える運動をはじめた畠山さんが、さまざまな人と出会い、いくつもの体験を通して、ゆたかな海を守り育ててきたようすが、わかりやすく楽しく語られています。小学校五、六年生以上なら読めるので、夏休みの読書にぜひ。

自然のしくみを知る



◇はたけやま・しげあつ=1943年、中国生まれ。「牡蠣の森づくり」代表。著書に『漁師さんの森づくり』など。

なぜ読んでほしいかというと、この本を読むと、自然のしくみがよくわかるからです。漁師さんが体験として知っていたゆたかな山とゆたかな海とをつないでいるのが、海にはほとんど存在しない「鉄」だということが、近年の研究によって明らかになりました。山に生えた木の腐葉土からできるフルボ酸と雨に溶けた地中の鉄とがくっついて海に流れこみ、それが海の中の植物プランクトンや海藻を育て、それらをエサにする貝や魚が多くなるというわけです。

もうひとつ、この本は、心から知りたいと願い、好奇心をもって努力すると、ほとんどのことは実現するということを教えてくれます。畠山さんは、あらゆることに興味をもち、その道のプロをたずねて教えるを乞います。そうした熱意が未来を開いていくことになります。

地球の環境は、山と川と海とが連鎖しながらつながることで護られています。そうした自然のしくみをより深く理解するために、あなたが中学生以上なら、アムール川やオホーツク海を調査した白岩孝行『魚附林の地球環境学』(昭和堂)をあわせて読むことをお勧めします。

気仙沼は3月11日の大津波で町も海もすっかり破壊されました。しかし、海には少しずつ生き物がふえはじめたそうです。おそらく遠くない日に、海の幸があふれることでしょう。